

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 4 年 4 月 19 日(2022.4.19)

【公開番号】特開 2021-70719(P2021-70719A)

【公開日】令和 3 年 5 月 6 日(2021.5.6)

【年通号数】公開・登録公報 2021-021

【出願番号】特願 2019-196466(P2019-196466)

【国際特許分類】

C 0 9 D 201/00(2006.01)

10

C 0 9 D 7/65(2018.01)

C 0 9 D 5/16(2006.01)

C 0 8 L 83/05(2006.01)

C 0 8 K 5/5425(2006.01)

C 0 8 K 5/06(2006.01)

C 0 8 L 71/02(2006.01)

【F I】

C 0 9 D 201/00

C 0 9 D 7/65

C 0 9 D 5/16

20

C 0 8 L 83/05

C 0 8 K 5/5425

C 0 8 K 5/06

C 0 8 L 71/02

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 4 月 11 日(2022.4.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

30

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

更に、式(1)で表されるシロキサン分岐型ポリエーテル変性シリコーンのGPCにおけるポリスチレン換算の重量平均分子量は500～100,000であり、好ましくは1,000～80,000であり、特に好ましくは1,500～40,000である。重量平均分子量が500未満であると防汚性が低下し、また100,000より上であると高粘度で取扱い性が悪いだけでなく、塗料組成物にした際に樹脂との相溶性に問題を生じる場合がある。

【手続補正 2】

40

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

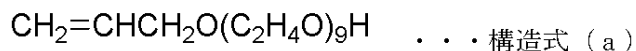
【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

その後、下記構造式(a)のポリオキシアルキレン化合物110gを添加して、更に3時間反応を継続させた。

## 【化 7】



## 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

10

[ 実施例 2 ]

実施例 1 において、化合物 (A) の 25 % プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート溶液の代わりに、化合物 (B) の 25 % プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート溶液を用いた以外は実施例 1 と同様にしてコーティング層 (2) を形成し、各種特性を評価した。

## 【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

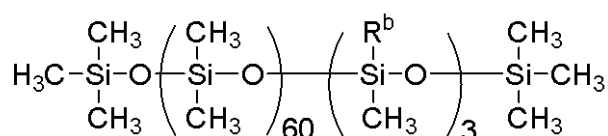
20

【0062】

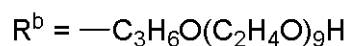
[ 比較例 2 ]

実施例 1 において、化合物 (A) の 25 % プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート溶液の代わりに、下記式の化合物 (C) (重量平均分子量が 6,100) の 25 % プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート溶液を用いた以外は実施例 1 と同様にしてコーティング層 (4) を形成し、各種特性を評価した。

## 【化 15】



30



... 化合物 (C)

## 【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

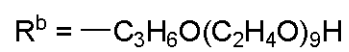
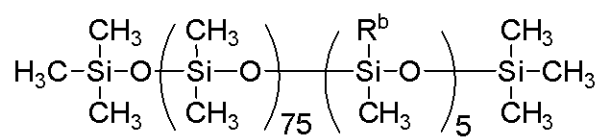
【0063】

[ 比較例 3 ]

実施例 1 において、化合物 (A) の 25 % プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート溶液の代わりに、下記式の化合物 (D) (重量平均分子量が 8,300) の 25 % プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート溶液を用いた以外は実施例 1 と同様にしてコーティング層 (5) を形成し、各種特性を評価した。

50

【化 1 6】



．．．化合物 (D)

10

20

30

40

50